「伊作田小学校の伊作田おどり伝承活動の取組」

１　学校名

日置市立伊作田小学校

２　学年・人数

４～６年生（35 人）

３　日時・場所

（１）練習の日時・場所

７月 24 日～31 日 13:30～伊作田小学校上校庭

８月１日～14 日 20:00～伊作田小学校下校庭

10 月 16 日～18 日 20:00～伊作田小学校体育館

（２）発表の日時・場所

8 月 15 日（火）　8:00～伊作田小学校区内

10 月 29 日（日）　15:40～鹿児島市民文化ホール「かごしま郷土芸能祭」

４　伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

（１）名称　　伊作田（いざくだ）おどり

（２）由来

南北朝時代の伊作田城主伊作田道材は，伊作の中原城を攻めた際，伏兵に捕らえられ，地元の弁財天嶽の見えるところで悲運の最期を遂げたと伝えられている。その遺徳を偲んで霊を慰めるとともに，田の虫を追い払い，五穀豊穣と天下泰平を祈って，藩政時代から伝承されてきた。

（３）構成等

指揮者（2 人）

踊りの主体･･･平鉦（3 人）入れ鉦（2 人）入れ鼓（2 人）

腰元（長刀）（10～15 人）※ 小学生

鉄砲隊･･･大太鼓（８～12 人）中入れ（足軽姿）（24～25 人）

５　保存会や地域との連携の具体

「伊作田踊り保存会」が資金を調達し，３年に１度自治会長，学校長，ＰＴＡ会長，婦人会長等を構成メンバーとする実行委員会が開催される。

小学生が中心の長刀については，7 月中は長刀だけの練習を日中に実施する。その開始日には，映像を見ながら指導者や保存会の方々から，踊りの由来やこれまで先輩たちが受け継いできた思いを語ってもらっている。また，日中の練習期間は，子ども育成会やＰＴＡが中心となって飲み物等の準備をする。

８月からの全体の練習は，成人の方々の仕事が終り，午後８時から練習をする。保存会の方々は，ほぼ毎日練習を見てくださり，各自治会婦人会が輪番で飲み物等の準備をし，地域総出で取り組む。夜間の練習であるため，保護者も毎回送迎をして，練習を見守る。

６　文化財伝承・活用の取組の工夫した点

地区公民館の映像資料や過去のパンフレット等を利用して，子どもたちに由来やこれまで伝えられてきたいきさつについて説明をした。また，総合的な学習における「ひおき学」（日置市小中一貫教育における郷土素材を題材とした

学習）においても取り扱い，日置市内の他地域の踊りとともに探求活動を行った。４年生以上においては，夏休みの課題として与えた作文の題材に多くの児童が取り上げたこともあり，各学級における夏休み作品展において，児童相互にそれぞれの思いを交流する機会を持つことができた。

７　取組の様子（練習状況，発表の場等）

８　参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

伊作田道才の遺徳を偲び，集落の五穀豊穣を願って，約 400年前から伝えられている伊作田踊り。音を耳で，動きを体で覚え，道才の魂を心に刻みながら，続いてきた。

夏休みに入ってすぐ，炎天下での練習が始まった。保存会の方が，汗をぬぐいながら，１つ１つの動きを丁寧に教えて下さった。８月に入ると，近所の高校生や大人たちとの夜の練習が始まった。これまでとは全く違う雰囲気と動きのある練習になった。いつも遊んでくれる高校生が，きりっとした表情で鉦を叩き，それまで冗談を言っていた父や大人たちも，ぴりっとして太鼓を叩いている。ただ体を動かすだけでなく，次のことを考え，移動しないといけない。音が入ると，これまでと違い，鉦と太鼓のリズムを覚え，それに合わせて動かないといけない。これまで余裕だった僕の気持ちは，一気にすっとんでしまい，焦りと不安な気持ちで一杯になった。高校生の足元を見ながら，ひたすらついていった。途中参加のはずの大人たちは，何回かの練習ですっかり動けている。僕たち小学生が一番練習しているはずなのに。父と同じ太鼓の人が，「27年前に鉦をしたから覚えてるよ。」と話してくれた。それを聞き，僕ははっとした。そうだ。これは，伊作田の人たちの心と体に刻み込まれた音と動きなのだ。そう考えると，急にやる気のスイッチが入った。「グワンカラ，グワンカラ，カンカンカン」。鉦の音がすうっと頭の中に入ってくるようになり，口ずさめるようになった。

本番の日。色とりどりの衣装を着て，各地域を回る。蒸し暑かったが，多くの方が応援し，拍手をしてくれた。父や祖父が子どもの時も，こうして集落皆で踊りを楽しんできたのだ。僕たちは，今まで以上に体を大きく動かし，胸を張って踊りを披露した。

僕たちの祖先が，大切に守り伝えてきた伊作田踊り。数年後，僕はきっと鉦を叩き，大人になったら必ず太鼓を叩くと心に決めた。（5年男児感想文一部修正）